

「第3回ミライシコウ金沢」に参加

令和7年3月15日(土)、金沢大学で「第3回ミライシコウ金沢」が開催されました（主催：金沢大学、主管：金沢大学附属高校）。「プログラムA 高校生探究成果発表会」と「プログラムB 高校生国際会議 Youth and Climate Action Conference2025」の2つのプログラムが準備され、本校からはプログラムAに、2年普通科課題研究 clover farm 班、人文社会科学科から地歴公民2班、理数科学科から化学1班、海外研修プレゼン班からジェンダー班の計4班、プログラムBには1年生4名（普通科2名、探究科学科2名）が参加しました。

探究成果発表会では10の分科会に分かれ、ポスターやスライドによる発表が行われました。分科会では、各発表のあとに質疑応答が活発に行われ、金沢大学の先生方を中心とした助言者の方々からもアドバイスやコメントをいただきました。県外の高校生も数多く参加しており、とても刺激に溢れた発表会でした。

高校生国際会議では、気候変動に関する政策立案や国際会議で活躍できる未来のグローバルリーダーに必要な知識と経験を身につけることを目的とし、様々な観点から講義（英語）を聴き、英語を使って、他校の生徒と意見を交換する貴重な体験となりました。

<生徒の感想>

- ・発表会当日は、人とつながることの楽しさを再認識した。他校の生徒や大学生、大学教授らと意見交換がき、自分たちの研究がより広がったように感じられた。
- ・国際分科会では、シンガポールの学生たちも参加していて、自分とは全く違う視点からの意見に触れることができた。他校参加者の英語でのプレゼンのレベルが高く、モチベーションが上がった。
- ・どの高校の発表も面白く、着眼点が独創的なものや実験や調査を何度も繰り返し行っているものがあり、同じ高校生なのにすごいと思った。自分たちの発表に対しても、自分たちにはない視点でアドバイスをもらい考えを深めることができた。
- ・1年間取り組んできた研究を県外の人に発表し、コメントをもらったり自分では気づけない多様な見方に触れたりすることができ、貴重な機会だった。
- ・自分たちだけでなく全国の高校生も同じように試行錯誤を繰り返し、探究活動をしていたのだと感じられた。全国から集まった高校生に自分の住む地域について考えていたことを伝えられてよかった。
- ・インプットだけでなくアウトプットも大切にすることで、他の人にわかりやすく説明したり要約したりすることができると思った。このことを忘れずに日々の学習に取り組みたい。
- ・県外の高校生は、ディベートなどをたくさん経験している人もいて、私も機会を見つけて積極的に参加したいと感じた。



左から順に、clover farm 班、地歴公民2班、化学1班、ジェンダー班の発表の様子